

事前準備について

日本参加青年のみを対象に行われた9月の事前研修からプログラム開始までは約4ヶ月。事前研修での反省を踏まえ、この長いようで短い時間をいかに過ごすか…。それがプログラムの充実度を決定づけるといっても過言ではありません。今年度の参加者がどのようにこの期間を過ごしたのか、どんな事前準備をしたのか、3人の事例を紹介します。

PYセミナーと「Japan Fes」を中心に

樋口 尚子

事前準備では、特にPYセミナーと「Japan Fes」に時間を費やしました。PYセミナーでは犯罪者の社会復帰をどう考えるかという更生保護について発表したのですが、事前研修の時点で一緒にセミナーを運営するメンバーを集めてコンテンツを決め、1月の乗船時までにある程度準備を進めました。船ではインターネットが使えないため、画像など必要な素材は事前にダウンロード。また、Skype等でミーティングを行い、パワーポイント作成や発表の役割分担を決めておきました。

「Japan Fes」では、日本の物産を紹介するため、事前研修時に各県で協賛品を集め担当を決定。その後、12月ごろまで、企業に協賛を依頼する資料を作り手紙や電話でアポイントメントを取り、企業を訪問して企画説明をしたり企業側の希望（アンケートや資料配布）を伺ったりしました。協賛企業へのアプローチのほか、「Japan Fes」協賛部にも携わりました。だれが・何県で・どのくらい協賛品をいただけたかにも携わりました。だれが・何県で・どのくらい協賛品をいただなどをするためです。協賛企業および協賛品の宣伝のため、協賛品の写真を撮影するためです。協賛企業および協賛品の宣伝のため、協賛品の写真と紹介文（日本語・英語）をfacebookページにアップする手配も行いました。



「チーム東海」で勉強会や合宿を実施

田垣内 義浩

「ついていけない…」。これが事前研修後の率直な感想です。他の参加青年と比べての自分の未熟さを実感しました。「プログラム開始まで4ヶ月ちょっとの短期間で、自分に何ができるのだろう？」

その際に行動の指針となったのが、地元の東海地方であった勉強会や合宿です。東海近郊に居住する参加青年たちで「チーム東海」を結成し、英語ディスカッションの練習や参加国情報の発表などを通して、プログラムに向けてチームとして準備を進めました。月1回のペースで集まることで、勉強へのモチベーションを高める良い機会になりましたし、何よりチームとして一体感を持てたことは、プログラム中につまづいたときの心のよりどころとなりました。

将来の参加青年のみなさんにも、事業参加が決定した際には、チームとして事前準備をすることを勧めます。きっとそこで一生のつながりが生まれるでしょう。



SWY30 オリジナルウェアをデザイン

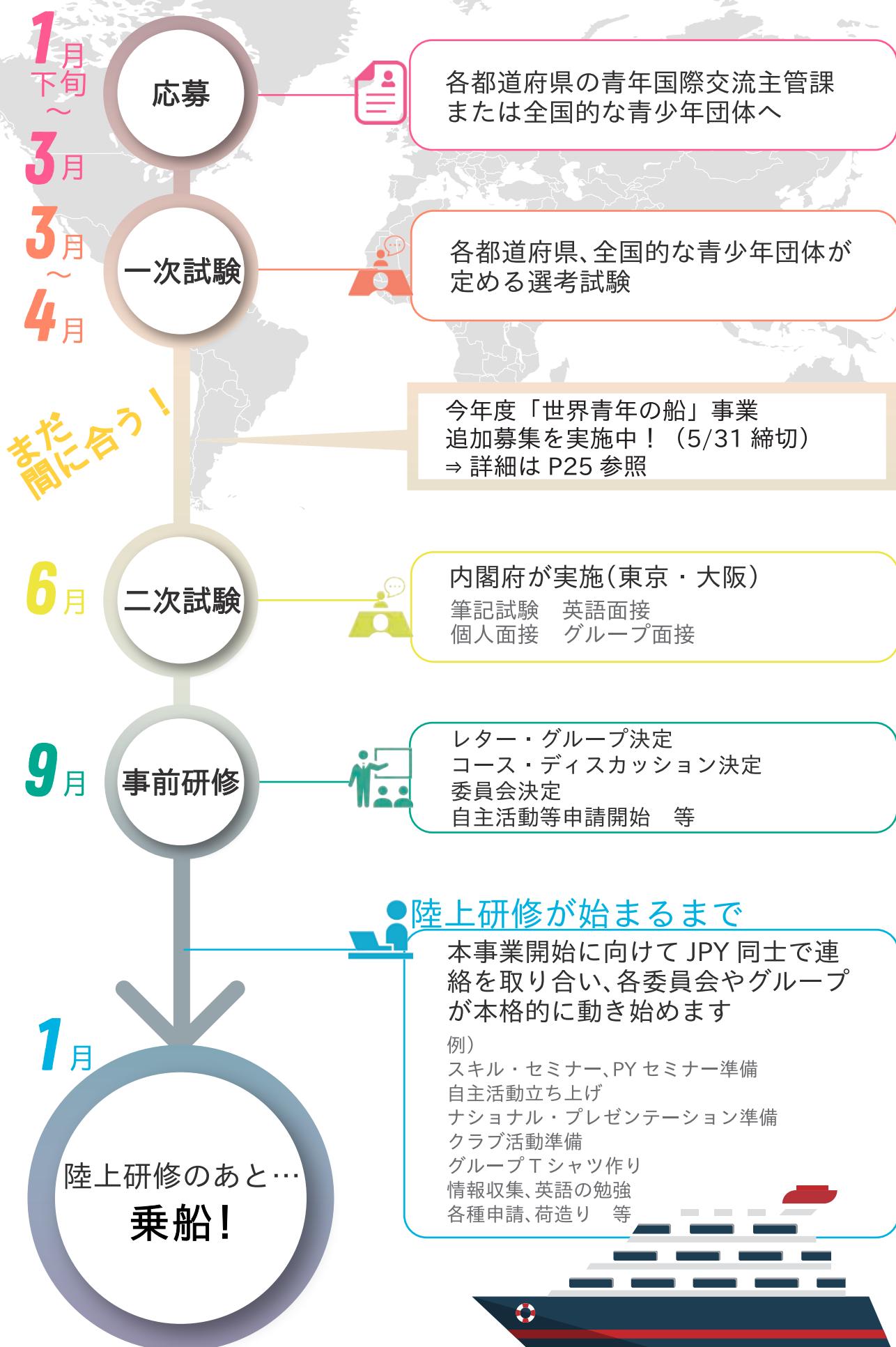
金成 麻莉亜

事前準備で力を入れたことはおもに3つです。1つめは協賛品。私は福島出身なので、人気一酒造の「人気一大吟醸」とJA福島の「ももの恵み」に加え、玉鈴醤油からも協賛品をいただきました。2つめはナショナル・プレゼンテーション（NP）委員として、各演目の準備具合を確認したり、連絡係をしたりしました。

そして最も力を入れたのは、SWY30オリジナルウェアのデザインとオーダーです。自分たちが持てる何か記念のものが欲しいと思い、スウェット上下を作りました。日本参加青年の希望者が購入したのですが、外国参加青年にも人気で、「買いたい！」と言ってくれる人もたくさんいました。最後に外国参加青年にプレゼントしたり、他の国のコスチュームと交換したりする人もいて、作ってよかったです。



応募から乗船までの流れ



子どもの人権コース

Children's Right



世界が直面している様々な社会問題を取り上げて、子どもの権利の保障を妨げている課題について考えるコース。事例をもとに、現状を共有し課題を改善・解決するためにできることを多面的に考え議論します。

セッションでは、子どもの教育、子どもの貧困などのテーマ別に、少人数で議論しました。社会の仕組みや政治的問題、親や先生の考え方や文化的な事柄が、子どもの生活に直接的に大きく影響することを学びました。また、各国の様々な事例から、課題の裏にある背景が多様であるほど、社会や子どもへのアプローチなどの問題改善方法も多岐にわたることに気がつきました。下船後、私たちが自分のフィールドに戻り、地域の子どもが平等に権利を保障するためにできることを実行する責任があると感じました。(相埜 良子)

生活習慣病コース

Lifestyle-related Diseases



先進国の主な死因は生活習慣病であり、これは予防可能な病気であると考えられています。グローバルレベルでの保健医療の現状を共有した上で、家庭からコミュニティ、国家、国際社会のレベルにおいて生活習慣病の影響を議論し、病気の予防や健康促進に生かせる方策を持ち帰ることを目的としたコースです。

生活習慣病は先進国だけの問題ではありません。途上国でも生活習慣病は増えつつあります。コースの中でゲストスピーカーを呼び、実際のがんの闘病経験や医師の立場からのメンタルヘルスの現状を学びました。コースの最後には、2人1組で病気の予防策を考え、プレゼンテーションを行いました。健康の維持を国家レベルで考えると、私たちにできることは限られますが、私たちがすべきこと、気を付けることの多くは家庭やコミュニティレベルで存在しています。下船後はコースで得た知識や経験を身近なコミュニティに共有し、健康維持をリードしていきたいです。(伏見 麻菜美)

防災活動のための 人材育成コース

Capacity building for Disaster Risk Reduction



防災・減災は持続的な発展のために不可欠であり、国レベルのみでなく、個人や地域コミュニティの参加と連携が求められます。このコースの目的は、参加青年が地域コミュニティでリーダーシップを発揮し、防災・減災を社会全体へと働きかけられるようになることです。

日本では、防災に対する意識や対策はしっかりとっていますが、それを上回る災害のリスクがあまりにも高いために、リスクを完全になくすることは難しいということを知りました。そして、自助・共助・公助という3つの視点について考え、災害時には政府による公助に頼りすぎず、地域での共助、そして自分自身での自助が重要になることを学びました。今後、いかに地域での連携ができるか、リーダーシップを発揮していくかを考え、形にしていきたいと思います。(遠藤 夕子)

持続可能な経済発展を実現する ソーシャルイノベーションコース

Social Innovation for Sustainable Development



社会問題を取り上げ、それを解決するために具体的に何ができるかを話し合うコース。参加青年は「持続可能な開発目標（SDGs）」の「21. 持続可能な開発目標と社会的インパクト投資」を意識し、自国で実施可能な社会・経済問題の解決につながるソーシャルビジネスプランを考えます。

ITコンサルタントやスタートアップ経営者、起業準備中の学生などが集まりました。コースでは、各自の取り組み、自国の事例を共有したり、グループワークで協力し合ったりして、お互いから学びました。結果として、志や活動に共感でき、将来一緒に働きたい仲間が世界各地にできました。今後、各自ができることを増やしていき、人を巻き込めるアイデアのもとに集まって一緒に活動できることが楽しみです。